

諏訪の龍神様之図

龍神さまと諏訪明神

諏訪湖を抱き天竜川の水源になっている諏訪には、縄文時代から蛇体神〜龍神の信仰がありました。神社やお寺ができては変わらぬ、庶民から幕府・大名までが龍神さまとしての諏訪明神を敬いました。龍神さまは今も諏訪の平のあちこちに、大切にされながら生きています。

※明神とは神仏習合時代の神様の呼び方です。



2 照光寺

甲賀三郎伝説に登場する下社秋宮本地仏千手観音の像を預かる、千年以上の白蛇あるお寺。境内の「龍象の水屋」には、屋頂裏までびっしりと龍神さまが彫刻されています。

1 天竜川

江戸時代には「天流川」と書かれることが多く、これは天から流れ下る川の意味。天=水源は諏訪の龍神さまなので、「天竜川」が定着したようです。



16 諏訪大社上社本宮

立川流二代富碁による幣拝殿正面の龍神さまが見事。布橋島の天流水舎は、どんな晴天でも屋根上の穴から水が滴り、天竜川の水源といわれます。

15 諏訪市博物館

龍神さまにかかわる多彩な展示の中でも、5匹の蛇の頭がかたどられた縄文時代の「蛇体裝飾付釣土器」は見もの。龍神さまの最古の姿でしょうか。



14 守矢神長官邸

諏訪の謎の神・ミシャグジを司る最高神官のお屋敷。資料館には、御室の「穴まごもり」後の春祭に75頭の鹿の生首が捧げられた様子が再現されています。

3 諏訪大社下社春宮

下社の神様は、伝説ではタケミナカタのお妃・ヤサカトメ。大隅流による幣拝殿の奥の梁には、いまにも動き出しそうな龍神さまが巻きついています。

4 慈雲寺と龍の口

鎌倉時代に中国の名僧が創建した名刹。中山道からの長い石段の登り口は龍の口と呼ばれ、江戸時代の石工が彫った龍神さまの口から水が溢れ出ています。

5 諏訪大社下社秋宮

春宮の大隅流に対し、当時新興の立川流が請け負った建築。幣拝殿の龍神さまは、正面上部の梁の上から、お参りする人を見下ろしています。

8 龍王大明神

石柱に巻きつく龍神さまがまつられている、手長神社の境内末社。龍王さまは、仏法の守護神とも、また雨ごいを聞き届ける水の様様ともいわれます。

7 手長神社

高島藩の総鎮守だった立派な神社。拝殿正面左右に斜めにかげられた柱の龍神さま「上り龍下り龍」は、立川流初代富碁による迫力満点の作品です。

6 尾掛松(杉の木神社)

「諏訪には神無月がない」伝説に登場する、諏訪明神の尾がかかっていたという松。江戸時代に枯れたといわれ、今は幹だけがまつられています。

9 八郎神社

諏訪高島城鎮護の神。御渡神事では諏訪湖の御渡りを拝観し、その年の農作物や社会情勢の吉凶、天候などを占って、大社や宮内庁に言上げしています。

蓼科山

10 仏法紹隆寺

1200年続くという名刹。甲賀三郎伝説に登場する善賢菩薩=諏訪大明神の本地仏を拝観できます。鎌倉時代に彫られた立派な白象に乗ったお姿です。

11 八龍神社(八立神社)

旧中金子村の鎮守。氏子衆は上社御柱の根固めと、役割を終えた古御柱の「御柱止め」を担当します。どちらも大地を司る龍神さまの役割です。

12 葛井神社

大晦日の真夜中の祭で、諏訪大社の神官がその年使った御幣を葛井の池に投げ入れると、元旦に「遠州さなぎの池」に浮かぶといわれます。現代の「龍穴」です。

13 諏訪大社上社前宮

諏訪の生き様・大祝のお屋敷跡のお宮。本殿への登り口右の石祠・御室社は、大祝と神長官が冬の間3匹の大蛇とともにこもった「御室」の跡です。

